

環境調査結果のお知らせ

令和8年7月26日6時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・ミキモトイが最高で14 cells/mL、シャットネラ属が最高で34 cells/mL確認されました。シャットネラ属は注意基準値（10 cells/mL）を上回っていますので、十分注意してください。

また、湾内全域の表層における水温が30℃を超えていますので、併せて注意してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度	水温	塩分	溶存酸素	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属
	(m)	(℃)		(mg/L)		
A 中学校前 (2.9m) 【06:24】	0	30.2	29.4	6.8	1	1
	2	29.2	30.2	6.7	6	2
	5	27.7	30.9	3.4	14	7
	10	26.2	30.9	0.1	0	34
	底層 12	25.6	30.7	0.1	0	0
B 光松 (3.8m) 【06:43】	0	30.8	29.6	6.9	0	0
	2	30.0	31.0	7.8	0	0
	5	29.6	31.7	6.9	0	8
	10	28.6	32.1	4.0	2	1
	底層 16	26.2	31.1	0.7	0	0
C 大鹿 (3.4m) 【06:35】	0	31.0	29.6	6.8	0	2
	2	30.0	31.0	9.0	0	0
	5	29.3	31.5	7.2	2	4
	10	28.7	31.9	4.0	0	1
	底層 16.5	26.2	31.3	0.3	0	0

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
カレニア・ミキモトイ	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 中学校前

B: 光松

C: 大鹿

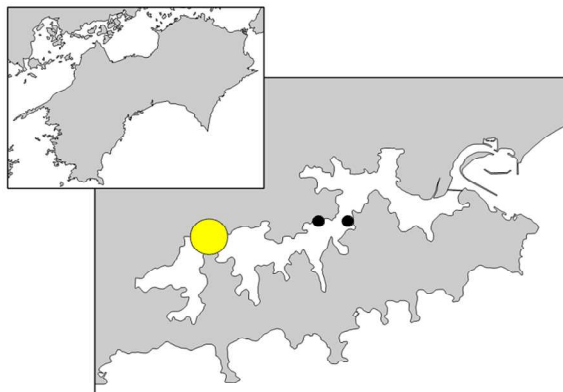
カレニア・ミキモトイ

最大細胞密度



シャットネラ属

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。

0
×

1~9

10

100

1,000

10,000

100,000

300,000

注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

